

修士論文（要旨）
2016年7月

発話末の「はい」「うん」「ええ」について

指導 堀口純子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻

214J3903

王 玫

Master's Thesis(Abstract)
July 2016

A Study of "Hai," "Un," and "Ee" at the End of Utterances in Japanese

Wang Mei

214J3903

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Sumiko Horiguchi

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景・動機	1
1.2	研究目的	2
第2章	先行研究	3
2.1	感動詞と肯定応答詞	3
2.2	発話末における「はい」「うん」「ええ」に関する研究	3
2.3	「はい」「うん」「ええ」の使い分けに関する研究	3
第3章	調査概要	5
3.1	調査方法	5
3.2	データ選択の基準	5
3.3	データ概要	6
3.4	データ分類の基準	6
第4章	発話末における「はい」「うん」「ええ」の機能	8
4.1	発話末における「はい」「うん」「ええ」の機能（返答文）	8
4.2	発話末における「はい」「うん」「ええ」の機能（叙述文）	10
4.3	発話末における「はい」「うん」「ええ」の機能（特殊文）	11
第5章	発話末における「はい」「うん」「ええ」の使い分け	16
5.1	使用傾向	16
5.2	「はい」と「うん」の使い分け	16
5.3	「はい」と「ええ」の使い分け	18
第6章	発話末における「はい」「うん」「ええ」に関する考察	23
6.1	文体との関係性	23
6.2	否定応答詞と否定文	26
6.3	肯定応答詞の多用	27
6.4	第三者の影響	28
第7章	おわりに	30
7.1	まとめ	30
7.2	今後の課題	30

参考文献

資料

要 旨

発話末の「はい」「うん」「ええ」について

本研究は、日本のバラエティ番組から発話データを収集し、発話末につけられる肯定応答詞「はい」「うん」「ええ」について、機能、使い分け、特徴の三つの視点から分析を行うと考える。具体的な課題を以下のように設定した。

- ①発話末における「はい」「うん」「ええ」はどのような機能を持っているか。
- ②発話末における「はい」「うん」「ええ」には使い分けがあるか。
 - a. 使い分けがある場合、どのように使い分けているか。
 - b. 使い分けがない場合、使用率にはどのような差があるか。
- ③「はい」「うん」「ええ」の使用について、どのような特徴を持っているか。

従来の応答詞に関する研究は、単一の表現にまつわる研究が少なく、複数の表現に関する対照比較が一般的である。研究内容を大きく分けて、肯定応答と否定応答に関する研究には池上（1952）奥津（1989）中島（2001）が挙げられる一方、肯定と否定それぞれの類似語に関する研究も多く存在する。

本稿の中心「はい」「うん」「ええ」という三つの表現について、それらの機能や使い分けに関わる研究は決して少なくない。しかし、発話末における用法に関する研究は非常に稀である。挙げられる研究例として、田窪・金水（1997）、渡辺（2013）は「はい」の発話末における用法について分析し、富樫（2002）は「はい」と「うん」の発話末における用法を比較分析した。しかし、これらの研究においても発話末の用法に関する分量が少なく、いずれも肯定判断の用法であると述べている。発話末における用法を中心とする研究が未だに見かけていない。

本稿のデータは全て日本のバラエティ番組から収集したものである。発話種類として「返答文」と「叙述文」に分けて、男女別に各250例、全1000例の発話文を今回の調査データにした。

分析考察を行った結果、「はい」「うん」「ええ」の機能に関して、「はい」「うん」「ええ」は発話文の種類や特定の表現によって異なる機能を果たしていることが明らかになった。

次に、発話末における「はい」「うん」「ええ」の使用傾向と使い分けについて分析した。「はい」「うん」「ええ」の使用回数は発話文の種類によらず、「はい」が最も多く使用され、続いて「うん」が使われ、最も使用数が少ないのが「ええ」である結果が得られた。「はい」「うん」「ええ」の違いは主に丁寧度の差であるが、丁寧度の他にも使い分けがみられた。「はい」と「ええ」は発話末における肯定応答詞であると同時にフィラーとして前後の文をつなぐ働きをする発話例がいくつかみられたが、「うん」はこのような発話例がみられなかった。また、発話文の種類によって使い分けがみられた。返答文と叙述文における使用回数に差がみられなかった「はい」や「うん」に比べ、「ええ」は返答文において多く使われているが、叙述文における使用例がやや少なかったが、情報共有の視点から使い分けが存在することがわかった。ほかに、発話が終了する時に聞き手からあいづちを打たれた場合、「ええ」を加えた用例がほとんどみられなかった。

さらに、「はい」「うん」「ええ」が発話末に現れる肯定応答詞として、どのような特徴を持っているかについて考察を進めた。本来、一般的な応答詞として「はい」「うん」「ええ」は丁寧度の違いによって常体文と敬体文に使い分けられているが、発話末に現れた場合、「はい」「うん」「ええ」が文体と必ずしも統一されていないことがわかった。

また、文頭に否定応答詞が現れた文や否定文では、文末に「はい」「うん」「ええ」が使用された用例が多くみられ、文末における肯定応答詞の使用が発話文が肯定文であるか否かには影響されないことが明らかになった。さらに、文末における「はい」「うん」「ええ」の多用は会話相手以外の第三者に関係していることがわかった。第三者が存在する場合、発話者が会話に参加しない第三者聞き手に意識しながら発話し、発話末に肯定応答詞をより多く加える傾向がみられた。

本研究の分析を通して、発話末の「はい」「うん」「ええ」が第三者の存在によって強い影響を受けている結果が得られたが、第三者がいない会話データが収集されておらず、発話者と会話相手のみの会話場面を分析することができなかった。この点に関して、今後の調査が必要であると考えます。

また、発話末に同じ用法と思われる表現の「そう」も多く使用されていた。今後は「はい」「うん」「ええ」を新たな視点から考察を進めるほかに、文末における「そう」の使用実態を詳しく分析することを課題の一つとしていきたい。

参考文献

- 安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』 くろしお出版
- 池上禎造 (1952) 「「はい」と「いいえ」」『国語国文』 21(8), 55-58
- 石井敏・岡部朗一・久米昭元 (1996) 『異文化コミュニケーション 改訂版』 有斐閣
- 瓜生佳代 (1995) 「談話における「だろう/でしょう」の用法について」『言語文化と日本語教育』 10, 58-60
- 大鹿薫久 (1990) 「疑問文の解釈」『語文』 55, 17-26
- 大津不二也 (1973) 「国語法における「文の成分」と「文」とについての試論」『文法と音声』 国文学研究9, A17-A29
- 奥津敬一郎 (1989) 「応答詞「はい」と「いいえ」の機能」『日本語学』 8(8), 4-14
- 小野正樹 (2010) 「現代日本語の命令形について—日本語学習者の習得と意識—」『国際日本研究』 2, 79-98
- 北川千里 (1977) 「『はい』と『うん』」『日本語教育』 33, 1-10
- 楠本徹也 (1994) 「否定疑問文とその応答に関する覚え書」『留学生日本語教育センター論集』 20, 1-14
- 島津明・川森雅仁・小暮潔 (1993) 「対話の分析—間投詞的応答に着目して—」『電子情報通信学会技術研究報告. NLC, 言語理解とコミュニケーション』 93(51), 65-72
- 白川博之 (1991) 「「テ形」による言いさしの文について」『広島大学日本語教育学科紀要』 1, 39-48
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』 257-279
- 富樫純一 (2002) 「「はい」と「うん」の関係をめぐって」『「うん」と「そう」の言語学』 127-157
- 土井晃一・大森晃 (1994) 「間投詞的応答表現「はい」の発話行為論の枠組を用いた分析」『情報処理学会研究報告自然言語処理 (NL)』 1994(63(1994-NL-102)), 41-48
- 中島悦子 (2001) 「自然談話における応答詞の使い分け「はい」と「うん」, 「いいえ」と「うん」—」『国士舘短期大学紀要』 26, 75-99
- 仁田義雄 (1989) 「「行こうか戻ろうか」—意志表現の疑問化—をめぐって」『日本語学』 8, 57-69
- 二宮理佳・金山泰子 (2005) 「「ええ」の機能についての一考察—「はい」との比較を通して—」『ICU日本語教育研究』 2, 51-64
- 林淳子 (2016) 「言語的反応の観点による疑問文の分類」『日本語学論集』 12, 401-376
- 朴仙花 (2008) 「現代日本語における接続助詞で終わる言いさし表現について—「けど」「から」を中心に—」『言葉と文化』 (9), 253-270
- 日向茂男 (1980) 「談話における「はい」と「ええ」の機能」『国立国語研究所報告』 65, 215-229
- 堀口純子 (1988) 「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』 64, 13-25
- 宮崎和人 (2005) 『現代日本語の疑問表現—疑いと確認要求』 ひつじ書房
- 山口堯二 (1984) 「感動詞・間投詞・応答詞」『研究資料日本文法』 明治書院
- 山田孝雄 (1908) 『日本文法論』 宝文館出版
- 渡邊真 (2013) 「現代日本語「はい」の意味分析」『言葉と文化』 (14), 165-180